

# 民主島根

2023年  
**7.2**  
第1428号

発行所 松江市袖師町3-6 TEL 0852-24-2444  
日本共産党島根県委員会 FAX 0852-24-6369

## 危険な島根原発再稼働ノ一 党躍進でいのちを守る新しい政治を

松江 大平 比例予定候補、むらほ 島根1区予定候補らが訴え



国会へ駆け上がる決意を述べる大平氏(左から3人目)(松江市)

日本共産党の大平喜信衆院中国ブロック比例予定候補・元衆院議員は6月19日、むらほえりこ衆院島根1区予定候補と松江市内で街頭演説し、再び国会へ駆け上がる決意を述べました。駆けつけた聴衆から大きな声援と激励が寄せられました。

商店街前では、尾村利成、大国陽介の両県議とともにマイクを握った大平氏は、岸田政権が60年を超える老朽原発の運転を認めた原発回帰の政策転換を批判。来年1月にも再稼働がねらわれている中国電力島根原発2号機にふれ、「危険な原発再稼働許さない」の声を一緒に上げよう」と訴えました。

むらほ氏は「命をない



### 尾村県議の一般質問 島根2号機の再稼働同意撤回を

尾村県議は、直近でもカルテルや不正閲覧など不適切事案を繰り返す中国電力が来年も島根原発2号機再稼働を強行しようとしていることについて丸山達也知事に対し「中電への県民の信頼は失墜している。信頼回復なきまま、2号機再稼働は認められない。再稼働同意は撤回すべきだ」と迫りました。

がしろにする岸田政権に子どもを語る資格はない。党躍進で命と暮らしを守る新しい政治を実現しましょう」と訴えました。(2面に続く)

### 6月県議会の論戦から

日本共産党の尾村利成県議は6月21日、一般質問に立ち、県知事や県執行部、教育長をただしました。

### 大規模風力発電の設置規制を

県内では、西部地域で80基を超す大規模風力発電事業計画が進められています。東部地域でも、安来市に11基設置を計画する日向山風力発電事業の他、安来市と雲南市の境界に13基設置する大出日山風力発電事業が計画されています。

尾村県議は、安来、雲南の住民から「島根の原風景が素晴らしい。豊かな自然を壊したくない」という声を守ってほしいと、全国でも前例がない4200キロワットの規模風力発電は「いらぬもの」などの声を寄せられていることを紹介。県として住民の切実な声を最大限聴取するとともに「民間の県外大手資本に対し、住民合意を

尾村氏は、中電が不正・不祥事を続ける根本的原因には①原発を最大限活用する国の原発推進政策②この地域で電力供給をほぼ独占する特権意識とおごり③原発は事故を起こさないという安全があることと強調し、丸山知事の認識を質しました。

丸山知事は「中電は原発の安全に対する意識が十分でなく、緊張感と責任感が不足していたのではないかと考える。不安解消のためには、まず中電が安全対策に取り組みることが必要」と答弁。これに対し、尾村氏は再質

問で「原発推進が国策だから中電は国が守ってくれる」と思っている。県として主体性を持ち、安全協定に基づく特別措置を中電に求めるべきだ」と主張しました。

尾村氏は、住民の不安が根強い避難計画についても質問し、「病院や施設、学校など避難を余儀なくされる一人一人の声を徹底して聞くべき」と要求しました。

丸山知事は、病院や社会福祉施設への説明会の開催や保育所、学校を対象とした会議などで意見の聞き取りの機会を増やすと応じました。

## 日本共産党演説会

7月8日(土)

- 13:30~ 県庁前ロータリー(松江市)
- 16:00~ ラピタ本店前(出雲市)

弁士 衆院議員/党国会対策委員長 **こくた 恵二**

〈私たちもお話します〉  
元衆院議員 **大平喜信** 衆院島根1区 **むらほ えりこ** (松江会場のみ)

7月9日(日) 14:00~  
JR 益田駅前 EAGA 大ホール

弁士 参院議員 **仁比そうへい** 益田市議 **安達みつ子**

### 鼓動

先の通常国会では、原発を最大限活用し、60年を超える老朽原発の運転を認める原発推進等5法(GX電源法)が成立した。日本を危険な原発依存社会へと引き戻す大転換にはかならない▼運転期間の制限は、福島第1原発事故後、国民的な議論を経て、安全規制として「運転期間は40年、延長しても60年」と規定されていた。廃炉作業は終わりが見えず、多くの人が故郷に戻ることができていない。「安全神話」は崩れ去り、原発に依存しない社会をめざすことが国民の合意だったはずだ▼運転期間の規定は、原子力規制委員会所管の原子炉等規制法から原発を推進する経済産業省所管の電気事業法に移され、今後は経産大臣が60年超運転の可否を判断する仕組みとなる。しかも、規制委の審査で止まっていた期間を運転期間から除外できるとされ、実際には70年を超えて運転できる仕組みとなっている▼世界最長の運転期間はインドのタラプール原発の約53年で、60年運転した例はない。原発事故12年を前に実施された全国世論調査では60年超運転を支持する人は3割にも満たず、増え続ける高レベル放射性廃棄物(核のごみ)など原発が抱える多くの課題に政府は納得できる回答をしなかった▼被害者の声を聴くために不可欠だった福島での地方公聴会も開かず、国民的議論がないまま成立を強行したことは許されぬ。国民の不安と向き合わず、原子力産業を厚く支援・保護する岸田政権を解散に追い込み、共産党の躍進で政治の抜本的転換を求める総選挙にしなければならない。(遠)